

マーケット概況（2025年6月）

6月の債券相場は、米国の関税政策の先行き不透明感から買いが先行し、10年378回債は1.505%で取引を開始した。3日の10年債入札への警戒感から10年378回債の利回りは一時1.520%まで上昇したが、入札結果が好調な内容となり再び買いが優勢となった。5日に行われた30年債入札は低調に終わったが、超長期債の発行減額や買入消却が検討されているとの一部報道から相場は堅調に推移した。財務省が超長期債の買入償却の7月実施を否定したことや、12日の残存15.5-39年の流動性供給入札が軟調な結果となると上値が重くなったが、13日にイスラエルがイランへ攻撃を行ったことが報じられると大きく買われ、10年378回債の利回りは1.385%まで低下した。17日の日銀金融政策決定会合では、来年度から国債買入の四半期毎の減額ペースを緩めることが発表された一方、7-9月の中長期債買入額の減額方針が示された。また、一部報道により超長期債の発行減額幅が期待を下回るとの見方が広がったことで相場は反落した。月末にかけ、中東情勢緊迫化への懸念が和らぎ日経平均株価が4万円台を回復するなどリスクオンが進む場面も見られたが、インフレ懸念の後退で早期利下げ観測が高まったことで米国債利回りが低下したことなどから下げ幅を縮小し、10年378回債は結局1.420%で今月の取引を終えた。

<短国市場>

6月の短国市場は前月から在庫が増加傾向であったためか、6日の3M1310回債入札は最高落札利回り0.4698%と前回入札より約4.2bp上昇し、翌9日の6M1311回債でも0.5058%と約6.0bp金利上昇した。月半ばになると8月償還債に店頭需要が見えたことでビッドが優勢になり、13日の3M1312回債は、事前予想0.460%程度に対して0.4468%と強い結果だった。19日の1Y1313回債は前回入札と同水準の0.5781%だったが、20日の3M1314回債は0.4316%と前週同様しっかりの結果だった。しかし、0.330%まで取引された8月償還債に強いビッドが見えなくなると、27日の3M1315回債では0.4396%とやや金利上昇し、セカンダリーではオファー優勢になり今月の取引を終えた。

<一般債市場>

6月の定例地方債は、5年債が前月比3bpタイト化の国債カーブ対比+17bp、10年債が前月比2bpタイト化となる国債カーブ対比+18bpの条件決定となった。10年定例政保債は前月比2bpタイト化の国債カーブ対比+16bpの条件決定となり、政保債・地方債スプレッドは前月比横ばいの2bpが継続した。入札物の大阪府債についても定例債の起債レベルを超えて条件決定されるなど、地方債カレント債は良好な需給環境は継続した。また6月の事業会社債の発行額は1兆5,685億円(59銘柄)となった。大型のAT1債が相次いだことが寄与し過去最高だった5月に続いて堅調な発行となった。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#378	1.505(2日)	1.385(13日)	1.520(3日)	1.420(30日)
#377	1.485(2日)	1.375(13日)	1.500(3日)	1.410(30日)
#368	1.235(2日)	1.140(20日)	1.245(3日)	1.155(26日)
#178(5Y)	1.015(2日)	0.945(20日)	1.045(3日)	0.980(30日)
#192(20Y)	2.410(2日)	2.295(26日)	2.425(4日)	2.345(30日)
#1304-#1311 TDB(6M)	0.510(9日)	0.445(18日)	0.510(9日)	0.450(26日)
#1309-#1315 TDB(3M)	0.430(6日)	0.365(26日)	0.460(6日)	0.430(27日)